

「汝何のために…」一期生

39会卒業50周年同期会

昨年10月25日、113人が秋田キャッスルホテルに集う。鎌田修悦会長の挨拶に「汝何のために其処にあり哉」が引用され全員シャキッとす。それもそのはず、昭和38年4月、鈴木健次郎校長が就任挨拶で述べたこの言葉に心打たれた第一期生が我々なのです。目黒初代会長による乾杯が終わると、神妙な顔つきも一瞬で駅前校舎に戻る。心を許せる仲間たちだ。翌日の“ぶらり旅”で同期の平野県立美術館館長から藤田副治の解説、濱乃家で舞妓さんと楽しむ等、39会の絆は「秋高39会だよりで一層団結している。13年間で延べ200人近くが寄稿。

今回、校旗の古代紫色で品よく装丁され、卒業50周年記念誌として発行した。また、赤沼幹事長が30分で記念写真に人型の氏名対比表を添付し、各自持ち帰りとなる離れ業も39会の“名物”だ。最後は我々の副歌「高校三年生」で名残りを惜しんだ。口々に「次はいつ開催だ？」の声がひっきりなしであった。(近藤嘉之 記)



卒後20年 語り合う喜び

平成7年卒同期会

平成27年1月2日、秋田キャッスルホテルにおいて、恩師を含む100人が参加し、卒業20周年を記念する平成7年卒業生の同期会を開催した。生徒会長石塚智之君の挨拶に始まり、星野滋秋田北高校校長が久々の再会を祝い乾杯。医師として活躍する傍ら、マジシャンとして活動する平野井啓一君による庄巻のマジックショーで大いに盛り上がり、締めは応援団長戸田洸輔君のリードで声高らかに校歌を斉唱し散会した。

様々な立場の垣根を越え、本音で語りあえる仲間との心地よい時間を過ごし、歳をとるのも悪くないとしみじみ感じた同期会であった。(佐藤寛也 記)



親子、兄弟会員の姿も

五城目支部総会

1月17日、五城目支部総会を開催。会員20人の参加。1月5日に突然逝去された齋藤正寧氏(昭和35卒)ならびに物故会員に黙とうを捧げた。

越後支部長、佐藤副校長と挨拶をいただき、金田勝年氏(昭和43卒)は国政の現状を報告、恒例となった応援団OB小森幸臣氏(昭和42卒)の指揮で校歌を斉唱した。親子会員、兄弟会員もいて五城目支部の層の厚さを感じた。故齋藤正寧氏を偲びつつ懇親を深め、次回の再会を誓い散会した。(菅原孝次郎[昭和44卒] 記)



新支部長に菊地紘氏

飯田川支部総会

平成26年度総会を昨年11月22日、11人が出席し、わかさぎ亭で開催した。開会に先立って5月に逝去された鐘美津雄支部長をはじめ歴代会長・会員へ黙とうを捧げた。総会に入り加藤副会長の挨拶、事務局からの経過報告、議事では空席の支部長(会長)を出席者全員で菊地紘氏をお願いした。懇親会では近況報告・高校時代のエピソードなどで話が盛り上がり、締めは伊藤敏和君のイントロで校歌を斉唱し散会した。

次回も今年11月を予定したので今回以上の出席者を期待したい。(三浦浩一郎[昭37卒] 記)

